

—看護師シリーズ—

オストメイトの QOL に影響を与える要因

ストーマ外来受診状況に焦点をあてて

磯崎奈津子

日本医科大学付属病院看護部

The factors that affect the QOL of ostomates:
focus on their status of consultation at the stoma clinic

Natsuko Isozaki

Department of Nursing Service, Nippon Medical School Hospital

(日本医科大学医学会雑誌 2013; 9: 170-175)

はじめに

オストメイトの生活において、手術に起因するストーマケア困難や、生活および将来の不安や悩みなどの負担そのものが健康志向性と精神健康状態に影響を及ぼしていることが示唆され、QOL (Quality of Life) 水準を低下させないための継続的な支援が必要であると述べられている¹⁾。しかしながら、急性期病院のDPC導入、在院日数短縮の流れにより、ストーマ造設においても手術後2週間程度での退院が増えており、入院中にすべてのストーマケアを習得することが困難な場合も多い。そのため、ストーマケアに対して自信を持つことが難しく、その影響が退院後の日常生活に及ぶことでのQOL低下が懸念される。さらに、加齢とともにセルフケア能力は低下し、周囲の支援が必要となるが、近年の家族の傾向として核家族が増え、その支援は不足する傾向にある。

当院の入院患者の特徴として、高齢者や生活水準の低い生活保護を受けている方が非常に多く、退院後の継続支援の必要性は、より高いものと推測される。当院ではオストメイトに対しストーマ外来での退院後の支援を行っているが、受診状況にはばらつきがあり、

QOLの実態は不明である。

オストメイトに対する現在の支援の評価、および、今後の支援体制に繋げるため、当院のオストメイトのQOLの実態とQOLに影響を与えている要因を明らかにする必要がある。

研究目的

オストメイトのQOLの実態とQOLに影響を与える要因を明らかにする。

研究方法

1. 対象

当院にて消化管ストーマ造設術を受けた方で、退院後、2011年1月以降に当院外来受診歴のある方を対象とした。ストーマ造設後2カ月を経過していない方、調査開始時点で、ストーマ閉鎖、入院の予定がある方は除外した。

2. 方法

調査期間は2011年10月から11月までの2カ月間とし、期間中ストーマ外来の受診がある方には手渡し

Key words: stoma, ostomate, quality of life

Correspondence to Natsuko Isozaki, Department of Nursing Service, Nippon Medical School Hospital, 1-1-5 Sendagi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-8603, Japan

E-mail: nats@nms.ac.jp

Journal Website (<http://www.nms.ac.jp/jmanms/>)

で、受診のない方には郵送でアンケート用紙を渡し、同意が得られた方より郵送にて無記名で回答を得た。

倫理的配慮として、アンケート用紙とともに研究趣旨および依頼文書を同封し、調査への参加は任意であること、個人情報保護のためアンケート結果は調査目的以外には使用しないことを文書にて説明した。また、調査に関する質問や疑問がある場合に研究者と連絡がとれるよう連絡先を明記し、アンケート用紙の回答と返信をもって調査への参加同意とした。

3. 調査内容

1) ストーマに関する質問票

性別・年齢・同居家族・ストーマ造設術後経過年数(以下、術後経過年数とする)・ストーマセルフケア状況・ストーマに関するトラブルの有無・ストーマ外来受診状況についての質問票であり、研究者が作成した。なお、ストーマに関するトラブルについては、ストーマの管理困難な状況や要因を示すものとして皮膚障害・ストーマ傍ヘルニア・便漏れの有無・その他自由記載にて回答を得た。ストーマ外来受診状況に関しては、受診の有無・受診している方には受診による問題解決の有無・受診していない方にはその理由について回答を得た。

2) オストメイト QOL 調査票

オストメイトの特異性に基づいた QOL と一般的な健康に関連する QOL を評価するためにオストメイト QOL 研究会によって作成された『オストメイト QOL 調査票』²⁾を用いる。オストメイト QOL 調査票は、ストーマ関連 QOL スコアとして『ストレス』・『支援体制』・『ストーマに対する満足度』、一般 QOL スコアとして『身体的状態』・『活動性』・『心理的状态』・『セルフエスティーム』・『セクシュアリティ』・『経済的側面』の計 9 つの下位項目で構成されている。それぞれ、5 段階評定で回答を行い得点が高いほど QOL が高いことを示す。

3) 分析方法

オストメイト QOL 調査票から得点を算出し、QOL 総得点および 9 つの下位項目得点それぞれを平均値より得点の低い群・高い群(以下、低得点群・高得点群とする)の 2 群に分け、この両群間における「性別」・「同居家族の有無」・「ストーマセルフケア状況」・「ストーマに関するトラブルの有無」・「ストーマ外来受診の有無」での差を Fisher の正確確率検定にて分析を行った。なお、「年齢」・「術後経過年数」に関しては、その平均値の差を、独立したサンプルの t 検定にて分析を行った。統計ソフトは SPSS16.J を用

いた。

結果

調査票は 57 名に配布し 48 名から回収した(回収率 84.2%)。そのうち記入漏れのあった 1 名を除く有効回答 47 名を本研究の分析対象とした(有効回答率 97.9%)。対象者の属性を表 1 に示す。

1. QOL 総得点群と対象者属性との関連性

対象者 47 名の QOL 総得点の平均は 136.4 ± 27.2 (49~182 点)、中央値は 137 で、オストメイト QOL 研究会で算出された平均点 98.5 と比較すると 37.9 点高い結果であった。低得点群・高得点群の人数の比率を比較したところ、「ストーマに関するトラブルの有無」・「ストーマ外来受診の有無」において有意差 ($p < .05$) を認めた(表 2)。

2. 9 つの下位項目得点群と対象者属性との関連性

9 つの下位項目別平均点は、『ストレス』は 17.8 ± 6.3 (1~30 点)、『支援体制』は 2.7 ± 1.5 (0~6 点)、『ストーマに対する満足度』は 7.2 ± 2.7 (0~10 点)、『身体的状態』は 29.2 ± 4.8 (16~39 点)、『活動性』は 19.6 ± 6.0 (5~30 点)、『心理的状态』は 26.4 ± 6.7 (7~35 点)、『セルフエスティーム』は 20.5 ± 4.6 (9~30 点)、『セクシュアリティ』は 6.8 ± 2.7 (0~12 点)、『経済的側面』は 6.2 ± 2.5 (0~10 点)であった。

各項目で、平均点を基準に低得点群・高得点群に分け、人数の比率を比較した(表 3)。その結果、『ストレス』の項目では「ストーマ外来受診の有無」において、『ストーマに対する満足度』・『身体的状態』の各項目では「ストーマに関するトラブルの有無」において有意差 ($p < .05$) が見られた。また、『活動性』の項目においては「ストーマに関するトラブルの有無」で有意差 ($p < .05$) が見られたほか、低得点群での「術後経過年数」が平均 3.02 年であったのに対し、高得点群では平均 6.19 年と経過年数が長い傾向にあった。『セクシュアリティ』の項目では「年齢」・「ストーマに関するトラブルの有無」で有意差 ($p < .05$) が見られた。『経済的側面』の項目では「年齢」において有意差 ($p < .05$) が見られた。『支援体制』・『心理的状态』・『セルフエスティーム』の各項目においては有意な差は見られなかった。

表1 対象者の属性

| | | n = 47 単位：人 (%) |
|-------------------------|------------|------------------------------|
| 1. 性別 | 男性 | 30 (63.8) |
| | 女性 | 17 (36.2) |
| 2. 年齢 | 平均 | 71.2 ± 10.0 (49 ~ 90 歳) |
| 3. 同居家族 | 無し | 5 (10.6) |
| | 有り | 42 (89.4) |
| | 配偶者のみ同居 | 16 (34.1) |
| | 子・孫の同居あり | 25 (53.2) |
| | 親とのみ同居 | 1 (2.1) |
| 4. 術後経過年数 | 平均 | 4.7 ± 6.2 (0.25 ~ 27.7 年) |
| 5. ストーマセルフケア 状況 (現在) | 全自立 | 32 (68.1) |
| | 要介助 | 15 (31.9) |
| | 一部家族が介助 | 9 (19.2) |
| | 全部家族が実施 | 5 (10.6) |
| | 一部ヘルパーが介助 | 1 (2.1) |
| 6. ストーマに関する トラブル | 無し | 13 (27.7) |
| | 有り | 34 (72.3) |
| 7. ストーマ外来受診 | 無し | 7 (14.9) |
| | 存在を知らない | 4 |
| | 問題ないから必要ない | 3 |
| | 有り | 40 (85.1) |
| | 問題解決できている | 34 |
| | 問題解決できていない | 6 |

表2 QOL 総得点群と対象者属性との関連性

| | | n = 47 | | |
|---------------------|-----|------------------|------------------|--------|
| | | 低得点群 (n = 24) | 高得点群 (n = 23) | P 値 |
| 1. 性別 | 男性 | 17 (56.7%) | 13 (43.3%) | 0.371 |
| | 女性 | 7 (41.2%) | 10 (58.8%) | |
| 2. 年齢 | 平均 | 68.25 ± 7.86 | 74.26 ± 11.11 | 0.052 |
| 3. 同居家族 | 無し | 2 (40.4%) | 3 (60.0%) | 0.666 |
| | 有り | 22 (52.4%) | 20 (47.6%) | |
| 4. 術後経過年数 | 平均 | 3.60 ± 3.65 | 5.85 ± 7.96 | 0.226 |
| 5. ストーマセルフケア 状況 | 全自立 | 16 (50.0%) | 16 (50.0%) | 1.000 |
| | 要介助 | 8 (53.3%) | 7 (46.7%) | |
| 6. ストーマに関する トラブル | 無し | 3 (23.1%) | 10 (76.9%) | 0.024* |
| | 有り | 21 (61.8%) | 13 (38.2%) | |
| 7. ストーマ外来受診 | 無し | 7 (100.0%) | 0 (.0%) | 0.009* |
| | 有り | 17 (42.5%) | 23 (57.5%) | |

*P < 0.05

考 察

QOL 総得点で見ると、有意な差が見られたのは、「ストーマに関するトラブルの有無」・「ストーマ外来受診の有無」であった。「ストーマに関するトラブルの有無」が QOL へ影響を与えていたが、今回の調査対

象者 47 名中、トラブルを抱えていると回答した方が 34 名と多かったにも関わらず、当院においては、オストメイト研究会で算出された平均点より高い得点であった。これは、「ストーマ外来受診の有無」で有意差が見られたこと、また、ストーマ外来を受診することで問題解決出来ていると回答した方が 85% を占めていることから、オストメイトそれぞれが、ストーマ

を造設したことによる悩みや負担感を感じながらも、ストーマ外来での支援を得ることで、ある程度のQOL水準を維持できているものとする。しかしながら、トラブルを抱えながらもストーマ外来を受診していないオストメイトのうち4名から「ストーマ外来の存在を知らなかった」という回答があった。この4名中3名は術後経過年数が2年未満であり、ストーマ外来の情報を記載したパンフレット導入後にストーマを造設していることから、入院中、パンフレットの活用が十分に行えていなかった可能性がある。

本研究での対象者は65歳以上の高齢者が35名と74.5%を占めていたにも関わらず、QOL総得点において「年齢」での有意差は見られなかった。高齢オストメイトのQOLにおいては社会的支援の程度が影響しているとされているが³⁾、今回の調査対象者は、比較的セルフケア状況が良く、また、同居家族の存在、ストーマ外来受診者が多かったことが、社会的支援の不足を防ぎQOLの維持に繋がっているのではないかと考える。

9つの下位項目別にみると、『ストーマに対する満足度』・『身体的状態』・『活動性』・『セクシュアリティ』の4つの項目で共通して有意差が見られたのは「ストーマに関するトラブルの有無」で、いずれの項目においても、トラブルを抱えるオストメイトの低得点群の比率が有意に高かった。オストメイトのQOL向上においては、ストーマの良好な排泄管理が前提となる⁴⁾。ストーマの良好な排泄管理を継続するためには、ストーマ晚期合併症や便漏れ、皮膚障害などのトラブルが生じた際の医療者からの指導やケア上のアドバイスも重要となる。そのため、指導や説明に対する満足度を問う『ストーマに対する満足度』の項目において、「ストーマに関するトラブルの有無」で有意差が生じたと考える。また、トラブルを抱え良好な排泄管理が行われないことにより、「漏れるかもしれない」という不安な気持ちが常に付きまとう。その結果として、外出や活動・社交面において消極的になるということが、『活動性』の項目で有意差が見られた結果から分かる。さらに、『活動性』の項目での「術後経過年数」による差から、退院した後に多様な生活の状況下で、ストーマとともに生きていくための対処行動能力を年月を追って身に付けていくものとする。『身体的状態』の項目でトラブルを抱えるオストメイトの低得点群の比率が高かったのは、今回ストーマに関するトラブルとして、ストーマ傍ヘルニアを有するオストメイトが多く、活動の支障となる身体症状として現れているためであるとする。『セクシュアリティ』の

項目においてストーマに関するトラブルを抱えるオストメイトの低得点群の比率が高かったのは、オストメイトはストーマ造設により自尊感情を損ねたり喪失感を体験しており⁵⁾、加えて管理困難な状況を来すことでこれらの感情はより高まり、オストメイトの性の意義に何かしらの影響を与えている可能性がある。『セクシュアリティ』の項目は「年齢」による有意差も見られたことから、加齢に伴う性的欲求の減退や性生活の減少も要因であるとする。

『ストレス』項目で有意差が見られたのは、「ストーマ外来受診の有無」であった。オストメイトがストーマ外来で得ている支援の一つとして「鬱積した感情のカタルシス」があり、感情を語ることで緊張・不安・いらいらが軽減し心身がリラックスすると述べられている⁶⁾。日本オストミー協会での調査報告によると、自分がオストメイトであることを知られても良い範囲として「家族だけにしておきたい」と回答した方が全体の2~3割を占めており⁷⁾、オストメイトであるがゆえに生じた不安やストレス、悩みを話せる範囲はより狭まるものとする。ストーマ外来は、感情を吐き出しストレスを発散する場としても大きな役割を担っており、そのために、ストーマ外来を受診しているオストメイトに比較し、受診していないオストメイトの『ストレス』項目のQOLが有意に低い結果となったと考える。また、ストーマに関する問題が生じて、相談できる場が確保されているという安心感も、日常生活の中でのストレスを軽減させることに繋がっているのかもしれない。

『経済的側面』の項目に関しては「年齢」で有意差が見られたが、現在の所得や身体障害者手帳給付状況、ストーマ装具給付額、ストーマ用品にかかる費用により経済的負担は大きく異なるため、年齢が影響しているとは一概には言えないだろう。

今回の調査で、当院においてはストーマ外来の受診によりオストメイトのQOLが高い水準で維持されていることが明らかとなった。その反面、アンケートの返信が得られなかったオストメイトは、ストーマ外来を受診しておらず、ほかにも、なんらかの理由でストーマ外来を受診できない状況にあるオストメイトが多くいることが予測される。ストーマケアにおいて問題が生じて、術後の追加治療としての化学療法の副作用やその他の疾患に伴う身体症状の悪化等により、ストーマ外来の受診が困難なオストメイトがいることが考えられるため、今後はストーマ外来を受診していないオストメイトへも焦点を当て、その現状を把握し、支援の必要性・支援の在り方について検討していきたい。

結 論

1. オストメイトのQOLには、ストーマに関するトラブルの有無・ストーマ外来受診の有無が影響しており、当院においては、ストーマ外来での支援により、オストメイトQOL研究会で算出されたQOL平均点より高い水準にある。

2. 『ストーマに対する満足度』・『身体的状態』・『活動性』・『セクシュアリティ』項目では、ストーマに関するトラブルを抱えることでQOLが低下する傾向がある。

3. 『活動性』項目のQOLは術後経過年数を重ねることで高まる傾向がある。

4. 『ストレス』項目のQOLには、ストーマ外来受診の有無が影響しており、受診しているオストメイトの方がQOLは高い。

本研究は第22回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会において示説発表したものである。

文 献

1. 石野レイ子：オストメイトの生活と健康志向性および精神健康状態に関する研究. 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会誌 2008; 24: 109-117.
2. オストメイトQOL研究会：オストメイトQOL調査票, 1999.
3. 藤井公人, 駒屋憲一, 河合悠介ほか：QOL評価からみたストーマ造設後患者の現状. 東海ストーマリハビリテーション誌 2008; 28: 42-45.
4. 末永きよみ：局所的ストーマ管理困難の予防と対策. ストーマリハビリテーション実践と理論 (ストーマリハビリテーション講習会実行委員会編), 2006; pp 282-286, 金原出版.
5. 高波真佐治, 三木佳子：性の概念. ストーマリハビリテーション実践と理論 (ストーマリハビリテーション講習会実行委員会編), 2006; pp 301-302, 金原出版.
6. 谷優美子：オストメイトがストーマ外来で得ているソーシャルサポート. 地域看護 2007; 28: 43-45.
7. 社団法人日本オストミー協会：平成23年3月第7回オストメイト生活実態基本調査報告書, <http://www.joa-net.org/contents/report1/pdf/seikatsu-fukushi-1.pdf>

(受付：2013年3月20日)

(受理：2013年4月9日)